

災害時のリスク情報管理における GISの役割

地理情報システム学会
後藤 真太郎 (立正大学)

災害におけるGIS学会の取り組み

台風・豪雨災害では被災地情報のGISによる提供、情報のキュレーションが中心
熊本地震では、

防災GIS分科会

- ・熊本地震に係る学会員支援活動調査
- ・学会員の支援活動に関する情報を集約協力・参加の依頼者と希望者の仲介

九州支部

- ・九州地理空間情報ポータル、参加型情報システムの構築
災害の現地調査を行う学会・その他様々な関係者などが収集する
情報の集約し統合でき、現地の最新の情報を提供

学会員および学会員の所属する組織

- ・ボランティアが中心となった地図作成やSNS から必要な情報をリアルタイムに分析・抽出救援活動をサポート
- ・総合的な通行実績情報の提供
- ・空中写真・人工衛星・航空レーザ測量・判読による地形変化の抽出
- ・地震活動の三次元震源分布表示
- ・マイクロジオデータによる緊急対応
- ・り災証明発行業務支援

熊本地震における被災地情報支援の課題

- ・自治体の意向を重視した対策の弊害

被災地対策でオーバーフローの自治体も
例：り災証明書の発行、支援物資の仕分け

- ・ボランティア活動との協働

例：支援と受援のマッチング

- ・GISの視点で必要とされる機能

公共の地図を流通させて使うしくみ
情報後方支援ボランティアとの連携
関係機関が集める災害情報を集約し地図上に付与するしくみ

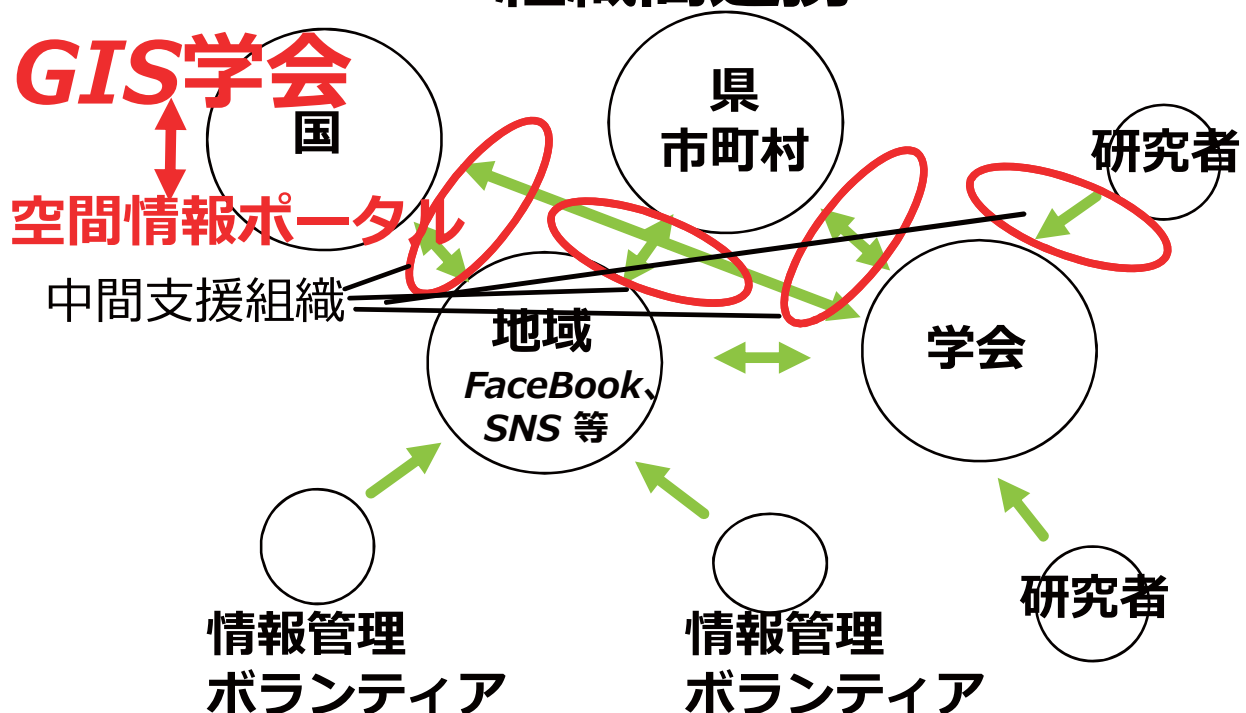
- ▶ 熊本地震IT関連活動まとめ

http://qiita.com/hal_sk/items/3ac0c92a74c0af4e789e

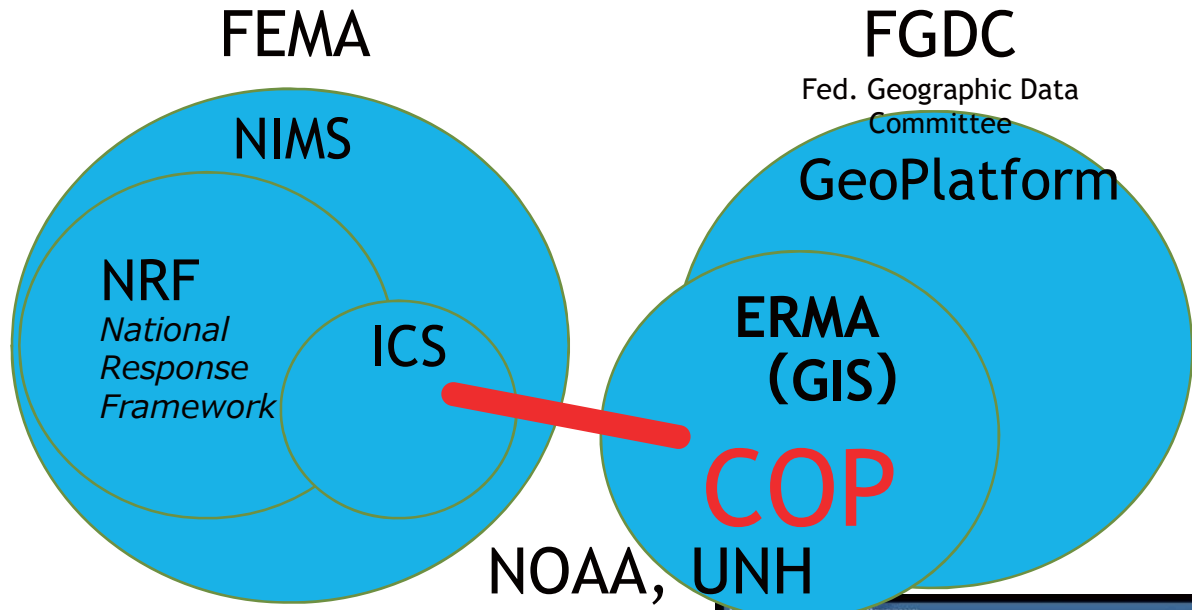
- ▶ 熊本地震_地図・地理空間情報関連まとめ：

<http://qiita.com/tosseto/items/f9e1b7c2747c5263da66>

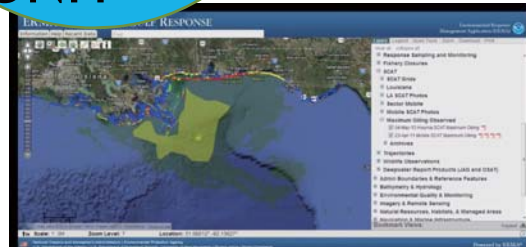
災害時のリスク情報管理における 組織間連携



ICS下でのCOP (GIS) の位置



2010.4 フロリダ沖油流出事故の事例



リスク情報管理におけるGISの役割

状況認識の統一：COP



- ・ データ流通 -> WMSを基本
(普段付き合いの中でデータ変換・クラウド化)
- ・ 使い易い・機能を限定・入手しやすいシステム
ex. オープンソースの利用

まとめ

✓ 異なる組織の情報共有のポータルとしてGISを利用

✓ 組織的にシステム的にも情報共有できるしくみ

組織的には、、、

- ・ 平時から役割分担の明確化・支援業務の標準化

システムからみると、、、

- ・ データ流通 ->ex. WMSを基本
(普段付き合いの中でデータ変換・クラウド化)
- ・ 使い易い・機能を限定・入手しやすいシステム
ex. オープンソースの利用